

分離発注の実例(木材コーディネーターが参加する場合)

兵庫県西脇市(旧黒田庄町)では林業、行政、建築をつなぐ役割である木材コーディネーターが参加し木材分離発注方式により地域の森林資源を有効活用した。分離発注を円滑に進めるための一つの手法である木材コーディネーターという役割と課題を、事例とプロセスを用いて紹介する。



講 師 能口秀一(NPO法人サウンドウッズ)



講 義 日 2011年11月1日(火)



事 業 者 阿部・辺見・秋月設計共同体

- | | |
|----------------|---|
| ◎素 材 生 産 量: 不明 | ◎人 口: 7,367人(旧黒田庄町(平成22年)、西脇市42,802人) |
| ◎JAS製材工場数: 0ヶ所 | ◎広 さ: 3,534ha(旧黒田庄町(平成17年)、西脇市55,296ha) |
| ◎製 材 量: 不明 | ◎地域材の定義: 門柳産材(町有林内作業道開設工事により産出された支障木) |

■事例:「岡あいあいセンター」

◎門柳産木材(旧黒田庄町町有林) 60.8853m³(64.7%) ◎その他県内産33.2217m³(35.3%)

延べ面積 456.97m²

防火上の地域区分 防火地域外

木材使用量 142.97m³

防火上の分類 その他



写真1 岡あいあいセンター

この事業は、森林の保全管理の目的で計画された旧黒田庄町有林における作業道開設工事によって産出された支障木を、木造公共施設建設に活用する試みであった。一般的には、林内作業道整備によって産出される支障木は作業道整備事業者に売却され、原木市場に販売される。この事業では、支障木の伐採時に、木造公共施設建設の基本設計プランを基にした、計画的な伐採・搬出・仕分けを行うことで、町有林の森林資源の有効活用を試みている。

1. 木材コーディネーターの役割

(1) 事業での木材コーディネーターの立ち位置

図1は分離発注における、発注者、納入業者、コーディネーターの関係を示す。発注者側に、木材調達の専門家である木材コーディネーターと、建築設計事務所の協働体制が編成されている点が特徴である。これにより、森林調査から木材調達・建築設計・建築本体工事監理までの全般におよぶ業務の流れが円滑に行われた。

木材調達・発注②

[第3章] 性能別講義録

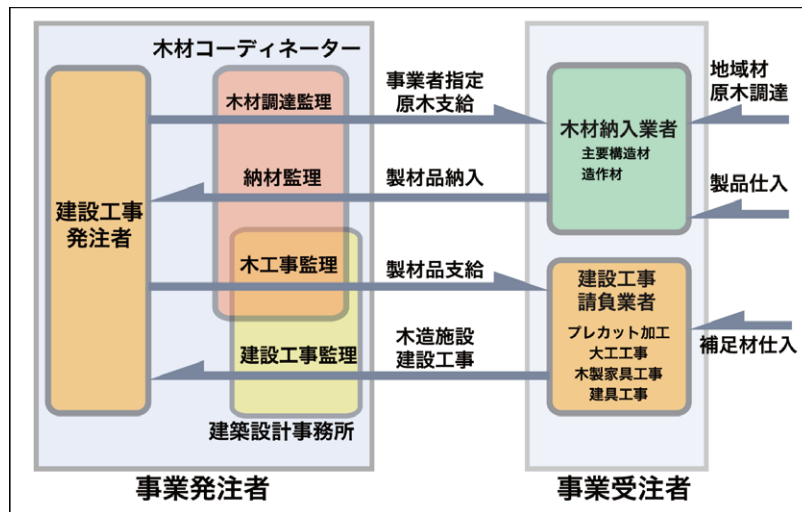


図1 事業関係図

(2) 事例を通しての成果

この監理の中で、現場での品質不安を解消するために、「納入木材仕様書」、「支給木材仕様書」を作成し、製材の品質確保と関係者の合意を実現している。図2にそれぞれの内容を示す。各仕様書は、木材の発注や納材時の注意事項、材の品質や数量についての規定、問題が発生した場合の対処について詳しく記した内容となっている。これにより発注者・木材納入業者・建設工事請負業者（以降「施工者」と記す）間での業務分担や責任の所在を明確にすることが可能となった。

(3) 木材コーディネーターの成果

木材コーディネーターの業務は、主として「納入木材仕様書」、「支給木材仕様書」の作成、各内容の指示や監理、材料選定である（図2）。その中で、発注者、木材納入業者、施工者など関係者にそれぞれの状況を伝え、合意を得る。またこれら仕様書とは別に、供給できる材に合わせて効率のよい使い方を設計者に提案することや、近隣の山林の状況、製材の状況を設計者へ提供するということも重要な役割となっている。

納入木材仕様書

建設工事の為に必要な木材を発注する際に、木材の納入業者と発注者間で交わす仕様書。

明記される内容

- ①発注業務における各事業所の役割
- ②納材スケジュール管理方法と品質管理方法
- ③納入木材の運搬・保管方法
- ④原木調達先が指定される場合の条件・調達の方法
- ⑤原木出荷証明書の作成依頼
- ⑥納材時の検査項目・検査方法、納品書・受領書の作成要領
- ⑦その他必要な事項

支給木材仕様書

支給木材を使った建設工事を行うために必要な規定を記す。建設工事設計図面の木工事仕様書として明記。

明記される内容

- ①木材納入業者と建設請負工事業者の、役割と責任の線引き
- ②支給木材の納材スケジュール管理方法と品質管理方法
- ③支給木材の運搬・保管方法
- ④木材納入時の受け渡し方法
- ⑤工事請負業者の納品後の品質管理の責任範囲
- ⑥納入木材以外の木材料・補足材の取り扱い
- ⑦その他必要な事項

図2 納入木材仕様書・支給木材仕様書

2.事業スケジュールと分離発注のタイミング

兵庫県加古川流域には年間原木消費量約5,000m³～20,000m³のJAS工場が数社あったが、他の公共建築物と納期が重なるため、一括発注では対応できず、材工分離発注とすることにより事業を円滑に進めることができた。

単年度の分離発注は伐採を8月中旬に設定し製材工場へ直送する。木材コーディネーターの参加による公共事業フローチャートを示す。(図3)

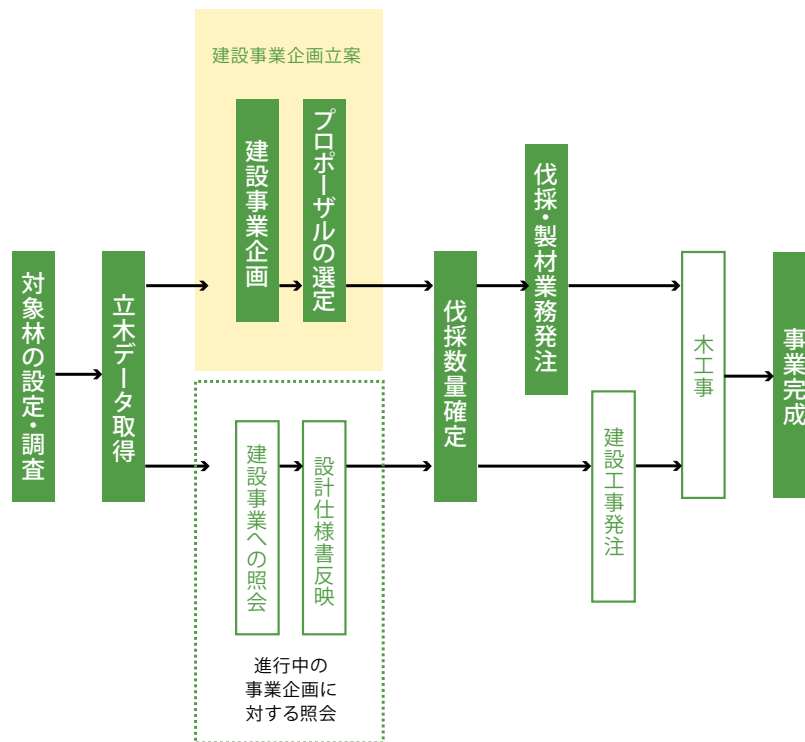


図3 事業フローチャート

3.品質についての合意と材の量的確保

一般的な分離発注の課題としては、品質に関する合意と量の確保が挙げられるが本ケースでは以下により解決した。まず前述の「納入木材仕様書」、「支給木材仕様書」を作成し、納入木材の品質について、行政、森林、設計、施工と合意形成を行った。

次に、伐採区域内で構造材等に適した品質を持つ立木の割合を調査し、実態をまとめることで、計画段階で建設に必要な資源量と、調達可能な部材寸法を見当できるようにした。